

関中学校だより

目指す学校像 一人一人の生徒が生き生きと学び活動する学校

地域、家庭とともに歩む学校 教職員が生きがいを持って働ける学校



関中学校 HP にアクセス

第 2 1 号

令和 7 年 1 2 月 2 日発行

亀山市立関中学校

文責：堀内

避難所開設訓練を行いました



役割分担 開設用具準備班
施設安全点検班 避難者誘導班
体育館内地区別区割り作業班
段ボールベット等組立班

11月26日（水）、関宿まちづくり協議会と関中学校合同で、避難所開設訓練を行いました。関中学校は、震度5強以上の地震が起こった時の避難所になるので、「避難所になった時に自分たち中学生や教職員が、地域の人たちと協力してどのように行動するかを体験して有事に備える」という目的で、訓練を行いました。当日は、震度7の地震が起こったという設定で避難訓練をした後、自分たちが避難所でどんな役割でもできるように、各班に分かれて説明を受けました。昨年までは、避難所開設で使う用具は、まちづくり協議会の方に事前に準備をしていただいていたのですが、今年は、実際の地震発生時に近い形で、中学生が道具を関交流センター等へ取りに行くところからスタートしました。また、学年縦割り班を作り、避難所開設の仕様が、次年度に引き継がれやすい形に変えました。避難場所は体育館だけではなく、合理的配慮が必要な人には、別の部屋で避難することも確認しました。また、段ボールベッドの組み立てもしました。用具の準備や片付け、受付などに課題は残りましたが、生徒たちは一生懸命取り組んでいました。この避難所開設に向けては、毎年訓練を重ね、有事に備えていきたいと思っています。

生徒の感想 災害時は、みんなが積極的にてきぱき行動して、協力することが大切であると学んだ。

- ・昨年までは、置いてあるものを組み立てたり移動させたりするだけだったが、今年から倉庫からすべて持ってくることになり、今までより本番に近い形で、避難所開設のイメージができた。今まで横を通っていた倉庫や部屋などに避難用具が置いてあって驚いた。
- ・訓練で本当に災害が起こった時のことを想像しながら動くことができ、防災への意識が高められたと思う。どんな役割になっても行動できるようにしておきたいと思った。
- ・避難者の誘導は簡単だと思っていたけど、いざやってみると感染症や車いすの人なども来て、大変だった。耳の聞こえない人の誘導などは、気にしたことがなかったので、考えるきっかけになった。
- ・区切りやライト、段ボールトイレなど思ったより災害に対する準備がされていた。物はそろっているもので、それをうまく使うための人材が必要だと感じた。自分が助けられる存在になりたいと思った。
- ・段ボールベッドを初めて作ったが、作り方が簡単で、思ったより頑丈だったことに驚いた。

がっこううんえいきょうぎ か い い いん こうりゅうかい 学校運営協議会委員さんとの交流会

11月13日(木)、関中学校学校運営協議会の委員と教職員の交流会を行いました。関中コミュニティースクール(CS)の活動の柱として、「生徒たちと地域との交流をもっと深める」を挙げています。第1回の学校運営協議会で、「まず教員や地域の大人がお互い顔見知りになることから始めることが大切である」という意見から、教職員と学校運営協議会委員との交流会を開催しました。『地域・保護者・学校が協力してできることは何か』を議題に、地域、保護者、学校が協力してできることについて話し合いました。

関中学校の現状について、教職員との交流会で出た意見

よいところ(うまくいっているところ)

- ・あいさつがしっかりできる
- ・素直、困っている人にやさしい
- ・落ち着いた学校生活を送っている
- ・先生と生徒の距離が近く仲が良い
- ・地域とのつながりが深い
- ・校舎がとってもきれい など

こま かいだ 困っているところ(課題)

- ・生徒の人数が少ないので、コミュニケーションが限定的である。
- ・一旦人間関係がこじれると、リセットできない
- ・部活動の運営が難しい
- ・メディアの使用時間が長い
- ・敬語が使えない など

ちいき ほごしゃ がっこう きょうりよく 地域・保護者・学校が協力してできることは何か(さらに良い学校にするためには)

- ・あいさつの輪を広げる。 ・地域の中の学校なので、地域がもっとしっかり支援していく。
- ・家庭、地域との連携、協力体制をしっかりと持ち、子どもの成長を見守る。
- ・防災訓練、中庭コンサート、PTAバザーなど、これからも継続していく。
- ・休日の部活動の地域展開について、今までの部活動は先生たちの協力で成り立っていたということを理解し、今後、保護者や地域が協力できることをしていく。
- ・先生たちの働き方改革を推進していく。先生たちも家庭があり、私生活を大切にしなければならぬことを地域や保護者がしっかりと理解することが大切である。

学校運営委員の皆様からは、「学校運営協議会という組織を使って、学校や先生をしっかりとサポートしていくことが必要である。学校が困っていることを掴んで、地域や保護者、他団体に働きかけ改善していくことが、学校運営協議会の役割である。」という心強いお言葉をいただきました。この教職員との交流会を通して、学校は保護者、地域に支られているということを再認識しました。とても有意義な時間であり、今後も交流する機会をもちたいと思いました。

あか は ね きょうどうぼきん じっし 赤い羽根共同募金を実施しました

11月19日(水)、福祉委員会の活動で赤い羽根共同募金を行いました。生徒たちは元気よく「赤い羽根共同募金にご協力お願いします!」とBASICへ買い物に来ていた人たちに呼びかけました。生徒たちは、募金活動が社会の役に立っているという思いで活動ができて、とても楽しかったようです。生徒たちは「募金活動を通して地域のひととつながれたことがうれしかった」「たくさんの方が募金をしてくれてうれしかった」と話していました。

